

松隠

松隠は、寒い冬にも緑の葉を保ち、丈夫で耐久性があることから縁起物とされている松の木にちなんで名づけられました。この建物の中には、男山にかつて建っていた瀧本坊にあった、閑雲軒（「雲に浮かぶ茶室」）と呼ばれるユニークな茶室の一小間のレプリカが含まれています。元々の閑雲軒は、山腹に立てられた木製の支柱上に建っていたため、まるで空中に浮かんでいるかのように見えました。山の斜面から7メートル上にある小間と書院からは、八幡とその向こうにある京都のパノラマの景色を眺めることができました。

著名な茶人であり作庭家でもある大名の小堀遠州（1579～1647）が、瀧本坊の当時の住職であった友人の松花堂昭乗（1584～1639）のために閑雲軒を設計したと言われています。閑雲軒は1773年に焼失しましたが、歴史的な設計図を元に復元されました。

松隠は松花堂庭園の外園にある3つの茶室の中で最も大きいものです。この建物には入口に至る通路と2つの間があり、そしてその他に茶の湯の準備や茶道具を置くためのスペースを備えています。茶の湯をたしなむ人々は、松隠を使ってイベントを開いたりお稽古を行ったりします。